

考古展

第 5 回

小さな展覧会

—昭和60年度発掘調査の成果から—

1986・8

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター



軒丸瓦・軒平瓦（中ノ島遺跡）



銅鏡（志高遺跡）



唾壺（長岡宮跡第164次）

昭和60年度の発掘調査概要

昭和60年度の発掘調査は、道路建設・河川改修のほかに、ほ場整備に伴うものがあって、多くの成果をおさめることができました。道路建設に伴うものとしては、仁田城跡・大内城跡といった中世城館のほか、小金岐4号墳・郷土塚4号墳・畑山2号墳などの古墳もあります。いずれもこの小冊子に紹介していますように、それぞれ貴重な成果を得ています。

そのほか、ほ場整備に伴って発掘調査したものとして、有明古墳群・横穴群、桃山古墳群があげられます。どれも古墳や横穴といった古代人のお墓ですが、それぞれの地域を解明する一資料を得ることができました。

このように、昨年度は、古墳を中心に多くの成果を得ました。これ以外に、窯などの調査も行っていますが、今後も発掘調査が進むことによって京都府下の歴史や文化、さらには人びとの生活などがより一層明らかになっていくものと思われます。



第4回 小さな展覧会

昭和60年度発掘調査一覧表

(勸京都府埋蔵文化財調査研究センター調査)

番号	遺跡名称	種別	所在地	調査担当者	調査期間	概要	出土遺物
1	正垣遺跡	散布地	中郡大宮町奥大野正垣	竹原 一彦	60.10.1~ 61.3.25	解説参照	解説参照
2	有明古墳	古墳	中郡大宮町三坂有明	増田 孝彦	60.11.18~ 61.3.23	解説参照	解説参照
3	桃山古墳群	古墳	中郡峰山町内記桃山	三好 博喜	60.11.27~ 61.3.24	解説参照	解説参照
4	下畑遺跡	散布地	与謝郡野田川町三河内	竹原 一彦	60.5.20~ 60.7.19	解説参照	解説参照
5	志高遺跡	集落跡	舞鶴市志高舟戸	山下 正 肥後 弘幸	60.5.30~ 61.3.20	解説参照	解説参照
6	河守遺跡	散布地	加佐郡大江町河守	三好 博喜	60.5.20~ 60.10.18	杭列・条 里遺構	銅鈴
7	多保市遺跡	散布地	福知山市多保市薬王寺	山下 正 藤原 敏晃	60.5.9~ 60.5.30	解説参照	解説参照
8	大内城跡	城館跡	福知山市大内平城	藤原 敏晃	60.8.27~ 60.10.4 61.3.3~ 61.3.30	解説参照	解説参照
9	仁田城跡	城館跡	福知山市宮城山	藤原 敏晃	60.6.27~ 60.8.23	解説参照	解説参照
10	薬王寺古墳	古墳	福知山市多保市薬王寺	山下 正 藤原 敏晃	60.5.9~ 60.7.20	箱式石棺 2基	須恵器
11	和田賀遺跡	散布地	福知山市長田	肥後 弘幸	60.9.26~ 60.11.13	解説参照	解説参照
12	栗ヶ丘古墳群	古墳	綾部市小呂町田坂	伊野 近富	60.11.29~ 61.3.27	木棺直葬	須恵器
13	綾中遺跡	集落跡	綾部市西町三丁目	伊野 近富	60.4.17~ 60.10.15	掘立柱建 物跡・溝	須恵器
14	味方遺跡	集落跡	綾部市味方町中ノ坪	西岸 秀文	60.8.5~ 60.10.5	竪穴式住居 跡5基・掘立 柱建物跡3 棟・溝	土師器・ 須恵器
15	青野遺跡	集落跡	綾部市青野吉美前	森下 衛	60.6.21~ 60.8.6	溝・土壇	弥生土 器・土師 器
16	小金岐4号墳	古墳	亀岡市大井町小金岐	引原 茂治	60.6.14~ 60.8.9	解説参照	解説参照
17	千代川遺跡	集落跡	亀岡市千代川町北ノ庄	森下 衛 西岸 秀文	60.8.28~ 61.1.14	解説参照	解説参照
18	湯井遺跡	古墳	亀岡市千代川町湯井	森下 衛 西岸 秀文	61.1.21~ 61.2.21	解説参照	解説参照
19	篠窯跡群	窯跡	亀岡市篠町	引原 茂治 竹井 治雄 岡崎 研一	60.5.7~ 61.3.28	解説参照	解説参照
20	西前山窯跡	窯跡	亀岡市篠町森	水谷 寿克 岡崎 研一	60.11.20~ 61.2.27	解説参照	解説参照
21	上中遺跡	散布地	北桑田郡京北町下弓削 鳥谷	増田 孝彦	60.5.13~ 60.9.14	解説参照	解説参照
22	山科本願寺跡	寺院跡	京都市山科区東野舞台 町	黒坪 一樹	60.10.29~ 60.12.14	礎敷	陶磁器類
23	長岡宮跡第164次	都城跡	向日市寺戸町西ノ段	石尾 政信	60.9.2~ 60.11.2	解説参照	解説参照
24	長岡京跡右京第193次	都城跡	長岡京市友岡一丁目	石尾 政信	60.7.5~ 60.8.22	解説参照	解説参照
25	長岡京跡右京第194次	都城跡	長岡京市開田三丁目	黒坪 一樹	60.6.19~ 60.8.2	解説参照	解説参照
26	長岡京跡右京第206次	都城跡	乙訓郡大山崎町円明寺 門田	長谷川 達	60.9.9~ 60.12.19	解説参照	解説参照
27	長岡京跡左京第124次	都城跡	向日市鶏冠井町西金村	村尾 政人	60.5.8~ 60.8.30	解説参照	解説参照
28	郷土塚4号墳ほか7件	古墳ほか	綴喜郡田辺町大住ほか	石井 清司 黒坪 一樹	60.6.10~ 61.3.25	解説参照	解説参照

番号	遺跡名称	種別	所在地	調査担当者	調査期間	概要	出土遺物
29	木津川河床遺跡	集落跡	八幡市八幡一丁目・焼木	岩松 保	60. 4.23～ 61. 2.19 (立会も含)	竪穴式住居跡4基・溝	土師器・須恵器
30	隼上り遺跡	散布地	宇治市菟道西隼上り	荒川 史	60. 4.16～ 60. 8.30	解説参照	解説参照
31	隼上り1号墳	古墳	宇治市菟道東隼上り	荒川 史	60. 7.29～ 60.11.27	解説参照	解説参照
32	芝山遺跡	散布地	城陽市寺田南中ノ芝	小池 寛	60. 5.21～ 61. 3.25	解説参照	解説参照
33	中ノ島遺跡ほか6件	散布地など	相楽郡木津町梅谷ほか	小山 雅人 戸原 和人	60. 5. 8～ 61. 3. 8	解説参照	解説参照
34	木津遺跡	散布地	相楽郡木津町木津南垣外	小山 雅人	60.10. 7～ 61. 1.18	解説参照	解説参照
35	燈籠寺遺跡	散布地	相楽郡木津町木津内田山	戸原 和人	60. 7.29～ 60.10. 8	顕著な遺構なし	陶磁器類

展示品出土遺跡分布図





調査地全景

〔遺跡の概要〕

正垣遺跡は、竹野川と常吉川の合流点から常吉川沿いにさかのぼった左岸の丘陵のすその所にあります。現在は、水田と畑地になっていますが、以前から耕作するときなど、土器が出土しましたので、何か遺跡があるだろうと考えられていました。

たまたま、この地一帯が府営ほ場整備事業の対象になりましたので、発掘調査したところ、各時代にわたる複合遺跡であることがわかりました。中心は、弥生時代から古墳時代の集落跡と、奈良時代～鎌倉時代の掘立柱建物跡群です。なかでも、奈良・平安・鎌倉の各時代の建物群は、正垣遺跡を代表するものと考えられます。この時代には倉庫が建てられたり、石製の巡方(帯飾り)が出土するなど、一般の農民の集落とはちがった性格の建物があったと推定することができます。この正垣遺跡一帯の地は、中世の「倉垣庄」の中に含まれており、あるいは、この荘園と関係する遺跡であるのかもしれませんが。



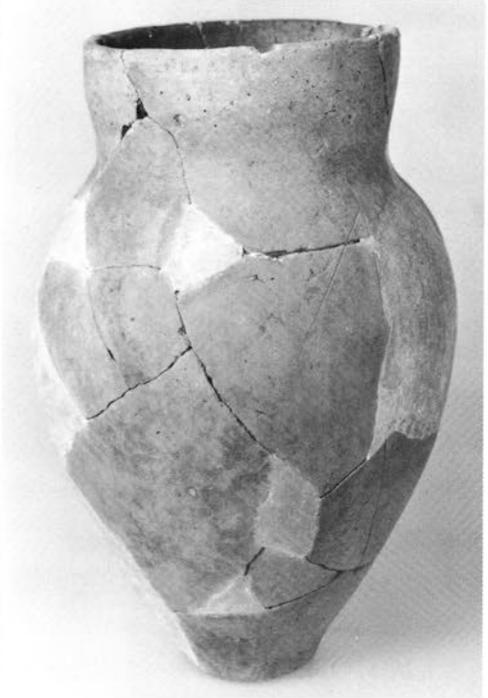
1. 緑釉陶器・耳杯



4. 弥生土器・鉢



2. 須恵器・椀



5. 弥生土器・壺



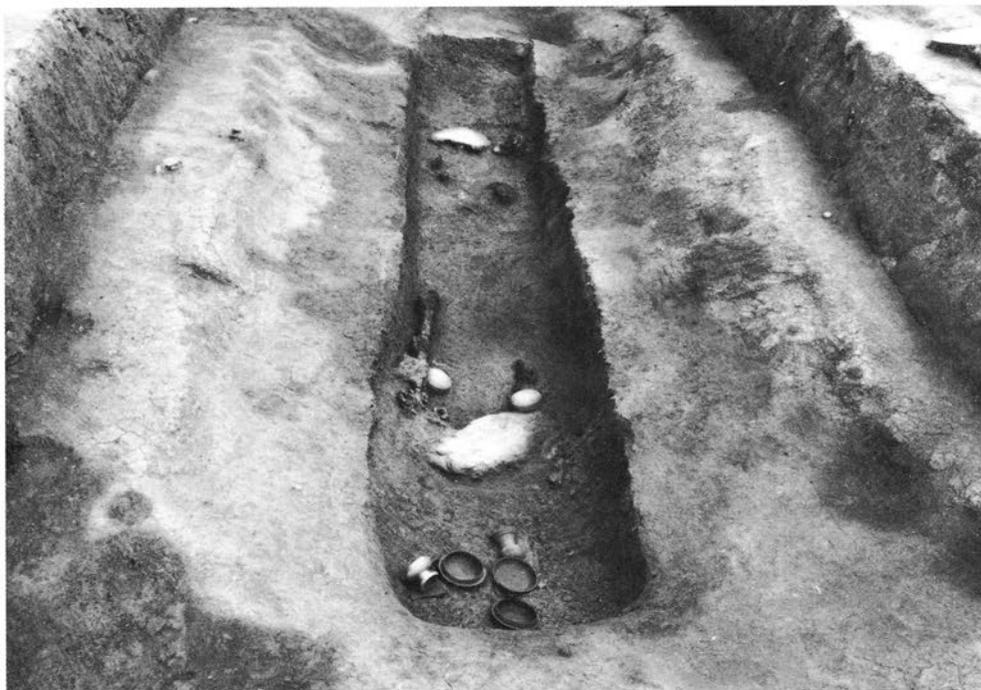
3. 弥生土器・甕



6. 琴型木製品



7. 舟型木製品



1号墳遺物出土状況

〔遺跡の概要〕

桃山古墳群は、峰山町内記にあって、竹野川右岸のやや奥まった丘陵上に立地しています。古墳は、2基ありました。いずれも土を丸く盛って築いた円墳です。

1号墳は、丘陵の先端にあって、埋葬施設を二つ持っています。西側にある第1主体部は、墓穴を掘って木棺を安置したもので、ここから須恵器・鉄製品・玉類が出土し、6世紀前半に埋葬されたことがわかりました。また、第2主体部も同じように木棺を直接土中に埋めたもので、須恵器・短刀・鉄鏃が出土しました。出土遺物が6世紀後半のものなので、一度古墳ができてから第2主体部がつくられたことがわかりました。

2号墳の埋葬施設は、1号墳と同じようなもので、一つみわかりました。木棺の木口の部分に粘土の塊を置いて木口を固定させていました。鉄鏃と刀子が副葬品として埋まっていたようですが、古墳の築造時期は必ずしも明らかにはなりませんでした。



8. 須恵器・杯蓋



11. 須恵器・杯蓋



9. くつわ



12. 須恵器・杯身



13. 須恵器・有蓋高杯



10. 玉類



14. 須恵器・甕

ありあけ

有明古墳群・横穴群

古墳時代 中期・後期
中郡大宮町三坂有明



有明横穴群全景(右から1・2・3号横穴)

〔遺跡の概要〕

有明古墳群は、大宮町三坂有明にあります。尾根筋に並んだ古墳群で、3基ありますが、今回は、そのうちの2基を調査することになりました。墳形は、いずれも方形で、高さは同じくらいです。尾根の先端に近い方が少し規模の小さいものでした。遺物は、金環のほか、組合式木棺の中から竪櫛や鉄鏃が出土しています。4～5世紀に造られたものです。

有明横穴群は、有明古墳群のある丘陵東斜面のすそところにあります。8基あることが確認されています。今回は、このうち3基を調査しました(北から1・2・3号)。1号横穴から4体分の人骨が見つかり、出土した土器類も破壊された状態で埋まっていました。また、3号横穴からは頭骨のほか、平安時代後期の須恵器もみついています。いずれの横穴でも炭が散乱しており、中にはカマドやファイゴの羽口が出土しているものもあって、興味深い結果を得ました。

なお、横穴の前面で竪穴式住居跡や溝もみついています。

しも はた
下 畑 遺 跡

弥生時代～鎌倉時代
与謝郡野田川町三河内



弥生時代の墓址

〔遺跡の概要〕

下畑遺跡は、与謝郡野田川町(丹後半島の基部)にあります。これまでも当調査研究センターが2回発掘調査を実施しており、弥生～鎌倉時代にかけての遺構や遺物がみつかっています。

今回の調査では、平安・鎌倉時代の遺物も出土しましたが、その時期のはっきりした遺構は検出されませんでした。今回の主な検出遺構は、弥生時代のものでした。弥生時代中期と思われる墓穴もみつき、この時代にはお墓が営まれていたようです。

出土遺物は、各時代にわたっています。弥生時代中期末とみられる把手付壺や甕が数個分ありました。また、平安・鎌倉時代の黒色土器や輸入陶磁器・輸入貨幣も出土しました。ちょっと変わった遺物として木製の下駄もみつかっています。鎌倉時代のもののようです。



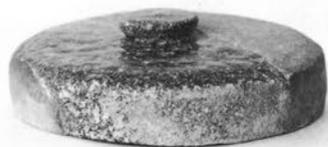
調査地全景

〔遺跡の概要〕

志高遺跡は、由良川の河口約10km上流の左岸の自然堤防上に位置しています。弥生時代から江戸時代にいたる複合遺跡です。

今回の調査では、縄文時代の包含層がみつき、多くの縄文土器や石器などが出土しました。今のところ、はっきりした遺構は確認されていませんが、今後の調査でみつかることが期待されます。

弥生時代の遺構面では、円形の竪穴式住居跡4基のほか、土壇・溝も検出され、多くの土器や石器が出土しました。古墳時代の遺構面でも方形の竪穴式住居跡が10基検出され、また、小型紡製鏡ほうせいが出土するなど多くの成果を得ました。これらは、主に集落遺構でしたが、奈良・平安時代の遺構は、掘立柱建物跡を中心とするもので、倉庫も多くみつけられました。建物の配置・規模もそろっていて、一般の集落とは性格がちがうものかもしれません。



15. 須恵器・蓋



18. 須恵器・蓋



16. 須恵器・杯



19. 須恵器・杯



20. 須恵器・皿



17. 石 劍



21. 須恵器・杯



22. 土師器・甕

にんだ とほのいち おおうち
仁田城跡・多保市遺跡・大内城跡

弥生時代・鎌倉～室町時代
福知山市宮・多保市・大内



調査地全景(多保市遺跡)

〔遺跡の概要〕

これらの遺跡は、近畿自動車道舞鶴線建設に伴い発掘調査を行いました。ともに土師川と竹田川の合流するところの近くにあります。

仁田城跡は、土師川左岸の丘陵上にあつて、江戸時代の書物である『丹波志』にも「古城」と書かれています。発掘調査では、土塁や空堀が比較的に残っていることが確認されました。調査した部分は、城西側土塁から外側の平坦地にかけてのところなので、城の全体像については明らかになりませんでした。平坦地で小さな柱穴がいくつか見つかりました。出土遺物は、少なかったのですが、瓦器や土師器のほか、中国から輸入された青磁碗などがありました。

多保市遺跡は、土師川右岸の丘陵上にあつて、奈良時代の竪穴式住居跡が見つかりました。それに伴つて、須恵器・土師器などの土器類が出土したほか、造り付けのカマドも検出されました。

大内城跡は、六人部荘の荘官クラスの地方豪族の館跡であることがすでに確認されています。今回は、その下層部分の調査で、弥生時代の竪穴式住居跡が2基見つかりました。

かみ なか
上 中 遺 跡

古墳時代～江戸時代
北桑田郡京北町下弓削鳥谷



土壇群

〔遺跡の概要〕

上中遺跡は、北桑田郡京北町の弓削川右岸にある遺跡で、過去2回の調査で古墳時代前期～鎌倉時代にかけての遺物が出土しました。

今回の調査では、38基の土壇が検出されました。不整形なものが多く、ほかに隅丸長方形・隅丸正方形のものもあります。平均して、深さは約60cm程度です。この土壇の中から土器が出土しました。

出土遺物は、古墳時代前期から江戸時代にわたるものですが、ほとんどが旧表土・床土から出土しました。土壇内からは、古墳時代の土師器がたくさん出土しましたが、その大部分が甕で、壺はほとんどありませんでした。また、高杯や器台なども出土しませんでした。この理由はわかりませんが、不整形な土壇のあり方や性格とかかわるのかもしれない。

こかなげ
小金岐 4 号墳・湯井遺跡

古墳時代 後期
亀岡市大井町・千代川町



横穴式石室全景(小金岐 4 号墳)

〔遺跡の概要〕

これらの遺跡は、国道 9 号バイパス建設に先立って発掘調査したもので、亀岡盆地北西部の行者山の西麓部にあります。

小金岐 4 号墳は、6 世紀後半から 7 世紀中頃にかけて造られました小金岐古墳群の東端に位置しています。地形測量しましたとき、4 号墳と呼んでいるところには 4 基の古墳があったと推定できました。しかし、調査では、江戸時代のお墓や土取りによってほとんど埋葬主体部が残っておらず、小さな無袖の横穴式石室が見つかったにすぎませんでした。石室の棺を安置した部屋(玄室)には敷石がありましたが、通路の部分(羨道)にはありませんでした。

湯井遺跡は、小金岐古墳群より行者山沿いに北へ行ったところにありますが、調査したところ、5 世紀末～6 世紀後半頃の須恵器は出土するものの、石材が散乱するだけで、顕著な遺構は検出されませんでした。



23. 土師皿



27. 土師皿



24. 土師皿



28. 須恵器・杯蓋



25. 陶磁器



29. 須恵器・有蓋高杯



26. 台付長頸壺



30. 須恵器・壺

千代川遺跡

弥生時代～鎌倉時代
亀岡市千代川町北ノ庄



調査地全景

〔遺跡の概要〕

千代川遺跡は、過去10次にわたって発掘調査され、弥生時代から鎌倉時代にいたる集落遺跡であることが確認されています。その範囲も、亀岡市千代川町一帯に広がり、丹波国府推定地や桑寺廃寺も含み込んだ、大規模な遺跡であることが明らかになりました。過去の調査では、弥生時代の方形周溝墓・竪穴式住居跡をはじめ、奈良・平安時代の掘立柱建物跡、桑寺廃寺の一部などがみつかっており、弥生土器や墨書土器なども出土しています。

今回の調査でも、弥生時代後期の竪穴式住居跡・溝・土壇、奈良・平安時代の掘立柱建物跡などが検出され、それに伴って土器も出土しました。このほか、今回わかった重要なことは、鎌倉時代の掘立柱建物跡・溝が現在の地割り(条里制のなごりとされます)と同じ方向になるということです。それ以前の遺構は、地形に沿って北西方向に軸をそろえていますので、国府の設計とどのようにかかわっているのか、大きな疑問を投げかけた調査になりました。



31. 須恵器・蓋



35. 須恵器・杯蓋



32. 土師器・皿



36. 須恵器・杯身



33. 弥生土器・鉢



37. 須恵器・蓋



34. 弥生土器・甕



38. 弥生土器・壺

しの 篠 窯 跡 群

奈良・平安時代
亀岡市篠町



西長尾奥第2窯跡群1号窯



西前山窯跡

〔遺跡の概要〕

須恵器の生産は、5世紀にはじまりますが、亀岡市西南部の篠町一帯では、8世紀中頃から11世紀はじめまで続いた須恵器を焼いた窯が数多くみつかっています。

西前山窯跡は、丘陵の北西斜面に築かれた半地下式登窯で、天井部はくずれていましたが、床面と側壁は、よく焼けしまって残っていました。窯の焚口部から下には灰原が広がっていましたが、そこから9世紀後半頃の須恵器が多く出土しました。窯体北東約10mと西方約2mのところで窯状の遺構が検出されましたが、何を焼いた窯か今のところ不明です。

西長尾奥第2窯跡群1号窯は、やはり半地下式登窯で、3回も床面をはりかえていました。窯の中や灰原から多量の須恵器が出土しました。時期は、8世紀後半(奈良時代後半)で、篠窯跡群の中でも古い部類に属します。この窯で焼かれた須恵器には大型品が多く、大きな甕かめを本格的に生産した窯であるようです。また、「日□」「大」「メ」とヘラで書かれた土器も出土しています。



39. 須恵器・杯



44. 須恵器・蓋



40. 須恵器・蓋



45. 須恵器・杯



41. 須恵器・杯



42. 須恵器・杯



46. 須恵器・瓶



43. 須恵器・重ね焼き



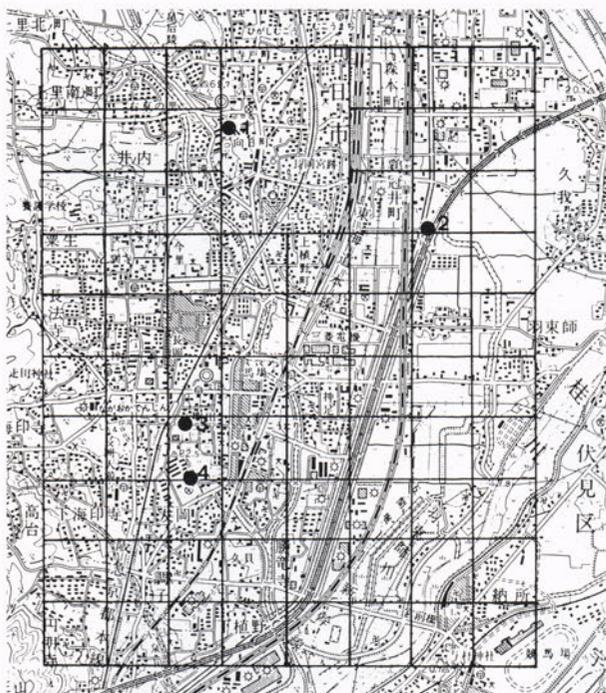
47. 線刻「日□」



48. 線刻「大」

長岡京跡・鶏冠井遺跡

弥生時代・長岡京期
大山崎町円明寺、長岡京市友岡・開田
向日市寺戸町



1. 長岡宮跡第164次
2. 長岡京跡左京第124次
(鶏冠井遺跡)
3. 長岡京跡右京第194次
4. 長岡京跡右京第193次

〔遺跡の概要〕

長岡京は、桓武天皇が784年に遷都した都城として知られています。

天皇の住まいや役所のあった宮(大内裏とも呼びます)内の調査は、1か所だけで、西端にあたる部分を調査しました。長岡京期の掘立柱建物跡や溝がみつき、多くの瓦や土器が出土しました。また、緑釉の唾壺(つばはき)もみつき、標高40m以上の丘陵斜面まで長岡宮の造宮が行われたことがわかりました。

右京域では、第193次・194次の2か所で調査し、第194次調査地で西二坊坊間小路の東西両側溝が検出されました。

左京域では、第124次調査が行われました。調査地は、推定左京二条三坊八町にあたりますが、長岡京期の遺構としては土壇・溝・柱穴がみつかったにすぎませんでした。しかし、弥生時代のいわゆる鶏冠井遺跡と呼ばれる時期の竪穴式住居跡がみつき、石器や土器が出土しました。弥生時代中期前半の遺構を確認したのは、今回がはじめてでもありますので、今後、注目すべき遺跡であろうと思われま。



調査地全景(長岡宮跡第164次)



49. 軒丸瓦(重圏文)



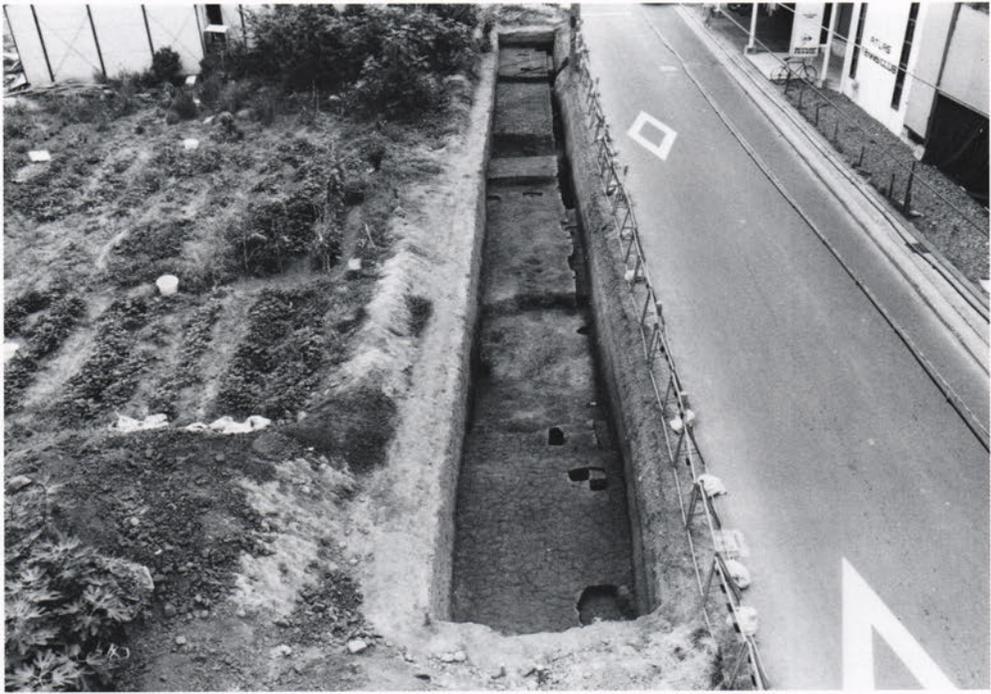
51. 軒丸瓦



50. 軒平瓦(重画文)



52. 軒平瓦



調査地全景(長岡京跡右京第194次)



53. 土師器・皿



56. 土師器・碗



54. 須恵器・蓋



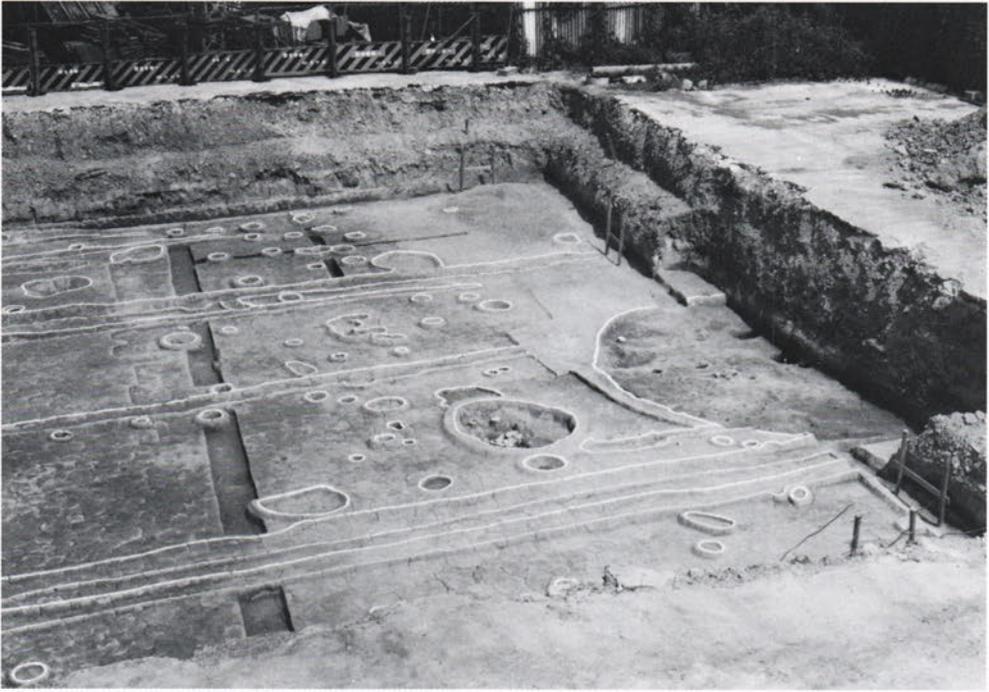
57. 土師器・碗



55. 須恵器・杯



58. 墨書土器「田」?



竪穴式住居跡等検出状況(鶏冠井遺跡)



59. 弥生土器・甕



60. 弥生土器・鉢



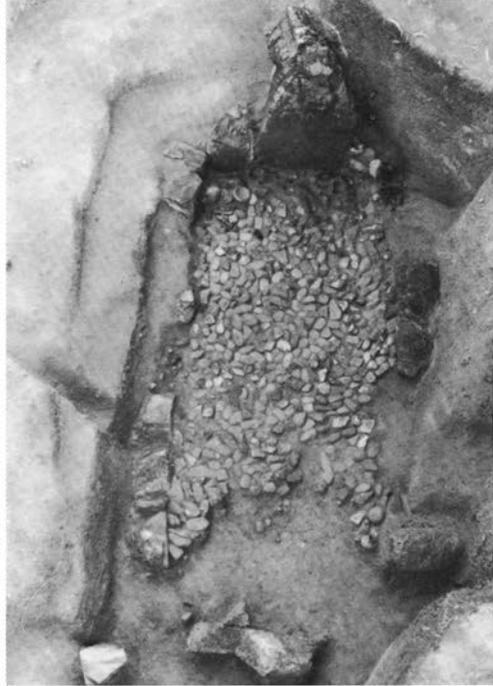
61. 弥生土器・甕

郷土塚 4号墳・畑山 2・3号墳

古墳時代 後期
綴喜郡田辺町



横穴式石室全景(畑山 2号墳)



横穴式石室全景(郷土塚 4号墳)

〔遺跡の概要〕

綴喜郡田辺町薪地区西側の標高60mの丘陵縁辺部周辺には、小さな古墳群がいくつかあります。この地に京奈バイパスが建設されることになりましたので、発掘調査しました。

郷土塚 4号墳は、直径15~20mの円墳で、南東方向に入口を持つ無袖式の横穴式石室を内部主体としていました。石室の残り具合は、あまりよくなく、最下段の基底石が残っているだけでしたが、玄室部の床面には拳大の河原石が敷いてありました。遺物の残りもあまりよくありませんでしたが、土器類や鉄製品が出土しました。

畑山 2号墳も小さな古墳群の中の1つです。南西方向に入口を持つ無袖式の横穴式石室を内部主体とし、家形石棺がその中におさめられていたようです。また、玄室から羨道にかけて排水溝が設けられていました。郷土塚 4号墳も畑山 2号墳も 6世紀後半頃に造られたようです。

なお、畑山 2号墳の南で谷を隔てたところにある畑山 3号墳も調査し、そこから 6世紀末頃の銅椀が出土しています。



62. 須惠器・蓋



67. 須惠器・罎



63. 須惠器・蓋



68. 須惠器・長頸壺



64. 須惠器・蓋



65. 須惠器・蓋



69. 須惠器・提瓶



66. 銅 碗

はやあが
隼上り遺跡・隼上り1号墳

古墳時代～鎌倉時代
宇治市菟道隼上り



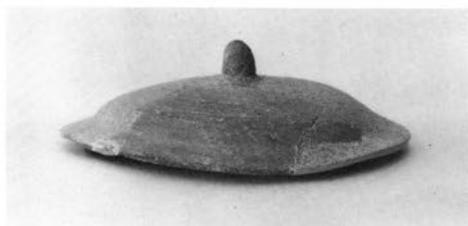
横穴式石室全景(隼上り1号墳)

〔遺跡の概要〕

隼上り遺跡・隼上り1号墳は、宇治市菟道隼上り地区にあって、古い国郡名でいえば、山背国宇治郡の南の端にあたります。

隼上り遺跡の発掘調査では、ピット(柱穴か?)以外はめだった遺構は検出されませんでした。風字硯(すずりの一種)や熨斗瓦のほか、大和国川原寺でみつかった瓦と同じ型式の軒丸瓦も出土しました。

隼上り1号墳は、径約21mの円墳で、両袖式の横穴式石室を埋葬施設としています。石室自体は、後世の破壊がひどく、すでに近世には別のお墓が石室の上に造られていました。そのため、遺物もあまり出土しませんでした。鉄鍬や土師器甕のほか、須恵器数点が出土しました。この須恵器の中には、特殊扁壺と呼ばれる珍しいものもありました。特殊扁壺は、山形の口を持ち、胴部に2つの穴をあけた土器のことで、この京都府下では初めての出土例です。



70. 須惠器・蓋



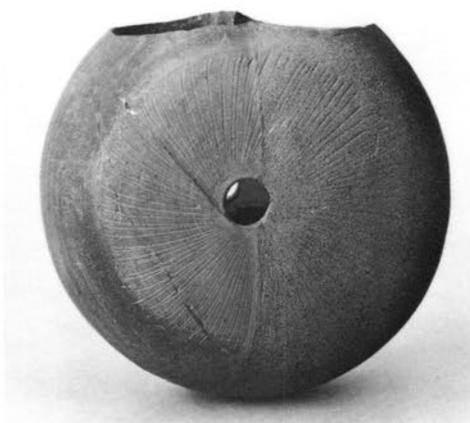
74. 須惠器・罎



71. 須惠器・杯



72. 須惠器・杯



75. 須惠器・特殊扁壺



73. 土師器・甕



76. 須惠器・高杯



古墳等検出状況

〔遺跡の概要〕

芝山遺跡は、城陽市寺田南中ノ芝にあって、標高約30～50mのところ立地しています。今回の調査では、古墳時代から奈良時代の遺構や遺物がみつかりました。古墳時代のはじめには竪穴式住居が造られ、人が住んでいたようです。しかし、5世紀末から6世紀になると、墓地にかわってしまいました。確認しました古墳も7基を数えています。その後、飛鳥時代になると、再び竪穴式住居が造られ、人々が住むようになりました。しかも、溝を境にして、西側にはやはり古墳が造られており、古墳の被葬者を考える上で貴重な資料を得ました。

奈良時代以降になりますと、掘立柱建物群にその姿をかえます。それぞれの建物の時期を決める遺物の出土が少ないため、詳しいことはわかりませんが、建物の主軸が磁北と一致する群・西へ32°ほどふる群・西へ12°ほどふる群の3つにわけることができるようです。



77. 須惠器・杯身



80. 須惠器・杯蓋



78. 土師器・甕



81. 須惠器・杯身



79. 須惠器・長頸壺



82. 須惠器・有蓋高杯



83. 須惠器・罎

なか しま
中ノ島遺跡

奈良時代
相楽郡木津町梅谷



調査地位位置図(1/50,000)

〔遺跡の概要〕

中ノ島遺跡は、梅谷瓦窯のある丘陵の北面裾部にあって現在は水田になっています。

調査しました結果、丘陵のすそのところで黒色の灰原がみつかりました。灰原は、窯の中の灰をかき出したもので、中には窯で焼かれたものが混じっています。この灰原でも軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦が数多く出土しました。窯の本体を検出することはできませんでしたが、灰原のようすから、丘陵の北側の斜面に瓦窯のあったことが推定できます。

主な出土遺物は、須恵器・土師器などが少しある以外、大部分が瓦でした。軒丸瓦の中で注目されるのは鋸齒縁珠文帯復弁八葉蓮華文のもので、興福寺創建のときに用いられた瓦と同範と考えられます。また、軒平瓦も、珠文鋸齒文帯均整唐草文のもので出土しています。これは、軒丸瓦とセットになり、これと同範のものがやはり興福寺から出土しました。



84. 軒丸瓦



88. 軒丸瓦



85. 軒丸瓦



89. 軒丸瓦



86. 軒平瓦



90. 軒平瓦



87. 軒平瓦



91. 軒平瓦

木津遺跡

(第4次)

弥生時代～江戸時代
相楽郡木津町木津南垣外



92. 青磁椀



94. 羽釜



93. 椀(伊万里系)



95. 炮烙

〔遺跡の概要〕

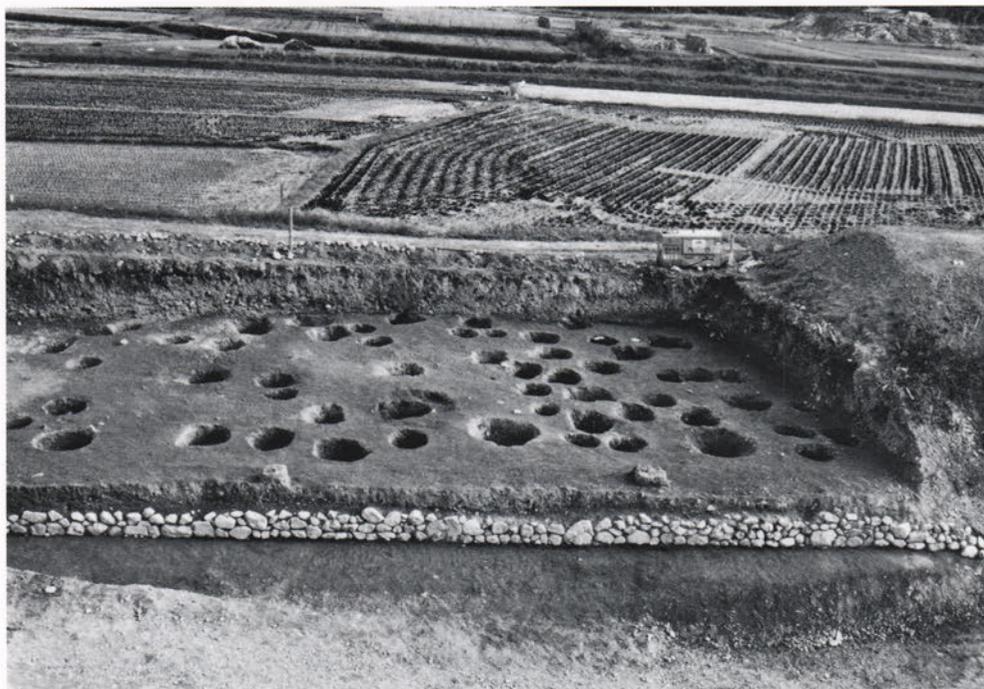
相楽郡木津町木津のいわゆる木津川南岸には、奈良時代から江戸時代にいたる木津遺跡の存在が古くから知られています。今回、木津警察署に新庁舎が造られるので、事前に敷地内を4か所に分けて発掘調査しました。

今回はじめて弥生時代の土器2点と古墳時代の埴輪や須恵器の破片数点がそれぞれ出土し、遺跡がもっと古くはじまる可能性が出てきました。奈良～鎌倉時代の遺物もかなり出土していますが、遺構はみつきりませんでした。室町時代のものとして、溝や池を検出し、そこから燈明皿・羽釜・国産陶磁器・中国製陶磁器などが出土しました。

遺物が最も多く出土したのは、江戸時代の土壇群で、唐津系・伊万里系などの国産陶磁器や土師皿・炮烙などがあり、時代は18世紀頃と考えられます。中には、瓦質大甕に陶器皿と鎌を副葬したお墓らしい遺構もありますが、土壇群は遺物の量が多すぎますので、ゴミ穴の可能性もあるようです。

和田賀遺跡

江戸時代
福知山市長田



近世墓群

〔遺跡の概要〕

和田賀遺跡は、福知山市長田前ヶ嶋にあって、土師川の上流に位置しています。

今回の調査では、江戸時代以降のお墓が66基見つかりました。墓壇(はかあな)は、方形または円形で、中に人骨が残っているものもありました。もとの木棺はすでに腐って残ってはいませんでした。

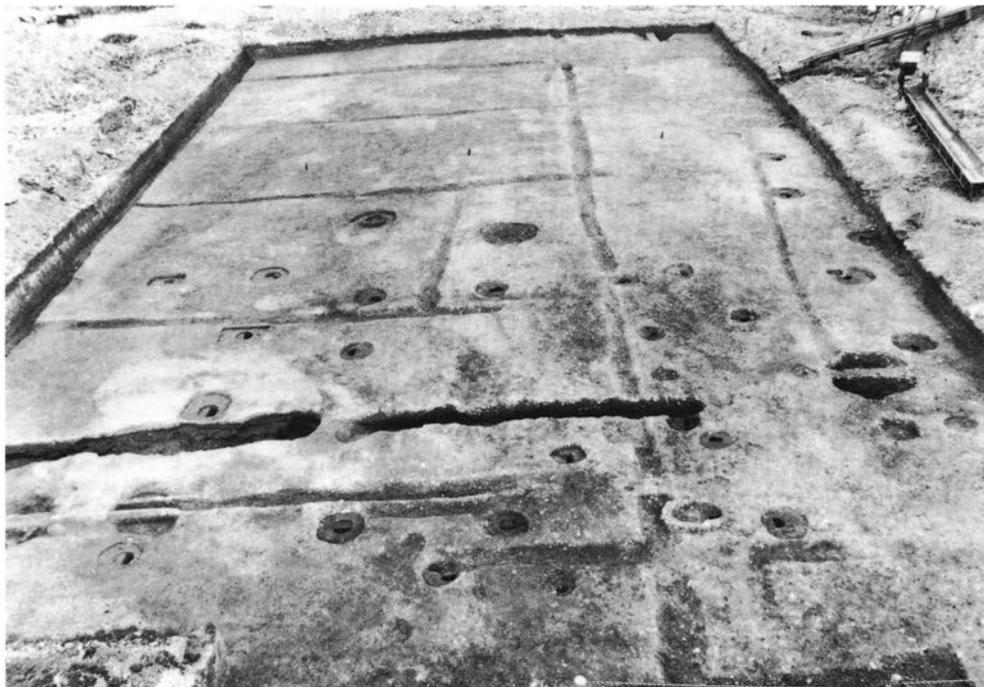
墓壇の深さや人骨の残り具合から、2～3時期にわけることができますが、地表に残された墓標などから、江戸時代中期以降、断続的に埋葬されたことがわかりました。

なお、土師川に面した部分には石垣が築かれて、墓地を区画していましたが、土留めの役にもたっていたようです。

長岡京跡左京第145次

(向日市教育委員会)

古墳時代～長岡京期
向日市上植野町芝ヶ本



調査地南部全景

〔遺跡の概要〕

調査地は、長岡京跡の左京三条二坊十三町の北西部の東二坊第二小路が推定される部分に当たります。調査は長岡京跡を対象に進めましたが、下層から古墳時代前期を中心とした大量の土器や遺構を検出したため、小字名をとって「芝ヶ本遺跡^{しばがもと}」としたものです。

調査では、室町時代の水田跡、長岡京時代の掘立柱建物跡1棟・溝1条・曲物井戸1基、古墳時代後期の掘立柱建物跡1棟・土壇1基、古墳時代前期～後期の自然河川2条・溝1条、古墳時代の溝3条・土壇1基・柱穴10か所が発見されました。出土遺物は、長岡京期～室町時代までの土器・瓦等に加えて大量の古墳時代前期の土器と碧玉製石釧^{へきぎよく いしくしろ}が発見されました。今回の調査成果は、①長岡京の左京三条二坊十三町北部の宅地の利用状況が判明したこと、②古墳時代前期の大集落が新たに発見されたことの2点です。特に、古墳時代前期の集落から出土した碧玉製石釧は宝器的な性格をもつもので、当時の祭祀のあり方や前期古墳との関連を考える上で貴重な資料と言えます。



96. 掘立柱建物跡(長岡京期)



99. 曲物井戸(長岡京期)



97. 土壇(古墳時代後期)



100. 土師器の出土状況(古墳時代前期)



98. 溝・柱穴(古墳時代前期)



101. 石釧

だい ごく でん
大 極 殿 古 墳

(向日市教育委員会)

古墳時代 中期
向日市鶏冠井町大極殿



周濠全景(北から)

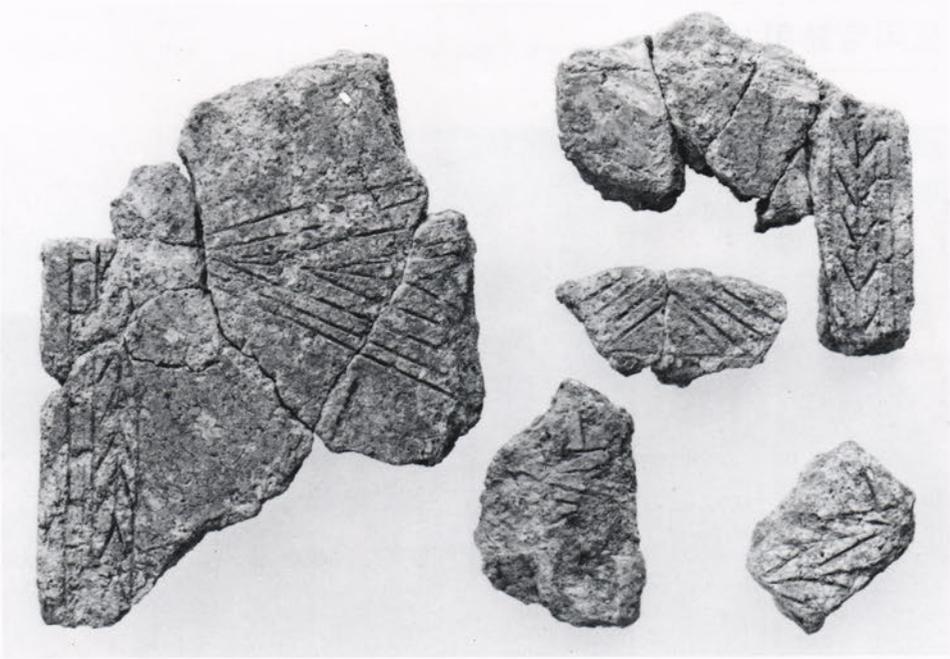
〔遺跡の概要〕

大極殿古墳は、長岡宮大極殿院北面回廊(東部)の整地層下から発見された中期末の古墳です。墳丘は長岡京造宮時に削平されており、検出されたのは、幅4～5m・深さ0.7mの周濠の一部です。このため、墳形や全体の規模等詳細は不明です。

周濠内から円筒埴輪1点、墳丘すそ部推定地から円筒埴輪2点以上、整地層中から盾形埴輪1点・朝顔形円筒埴輪1点が出土しました。

円筒埴輪の一部には「鹿」の線刻を施した例があります。また、盾形埴輪は盾部及び円筒部の一部を残すだけですが、御所市宮山古墳出土例の文様構成に酷似したものがありません。

大極殿院、朝堂院下層には、近年の発掘調査によって、中期から後期にかけての古墳群一山畑古墳群の存在が知られるようになりました。大極殿古墳はその一角を占めるやや規模の大きい古墳の一つと推定され、西50mの地で検出された古墳とともに、中心的な古墳の一つであったと思われます。



102. 盾形埴輪



103. 円筒埴輪



104. 北面回廊の重圏文

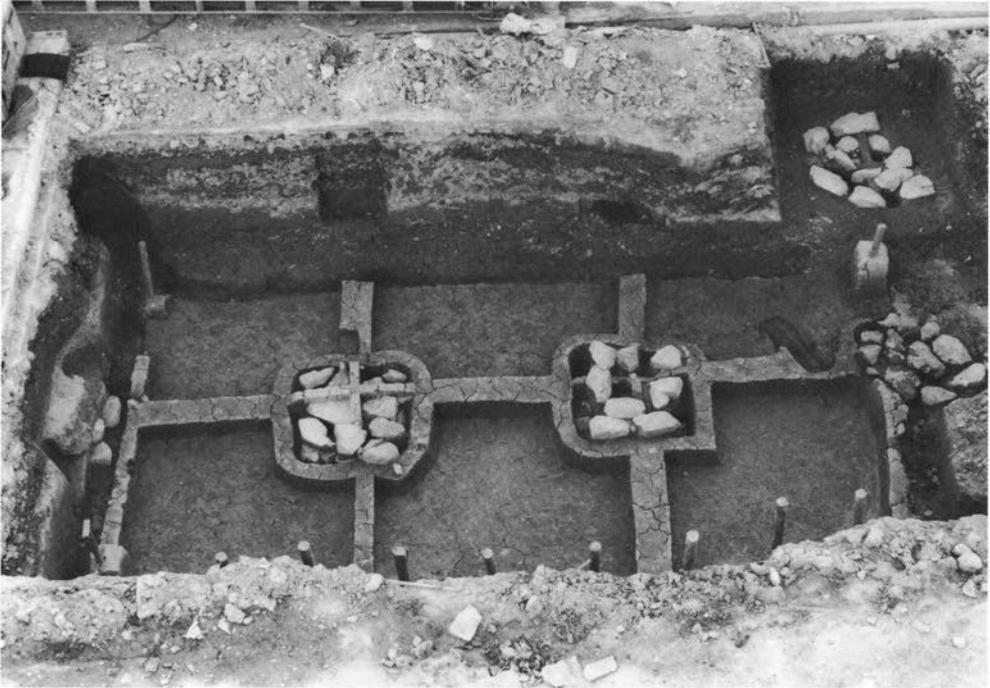


105. 軒丸瓦

長岡宮跡第161次

(向日市教育委員会)

長岡京期
向日市寺戸町初田



調査地全景(西から)

〔遺跡の概要〕

長岡宮跡第161次調査は、長岡宮の北辺中央部で行った調査です。その結果、調査区の中央部から、一部礎石を残す大規模な建物跡一棟を発見しました。

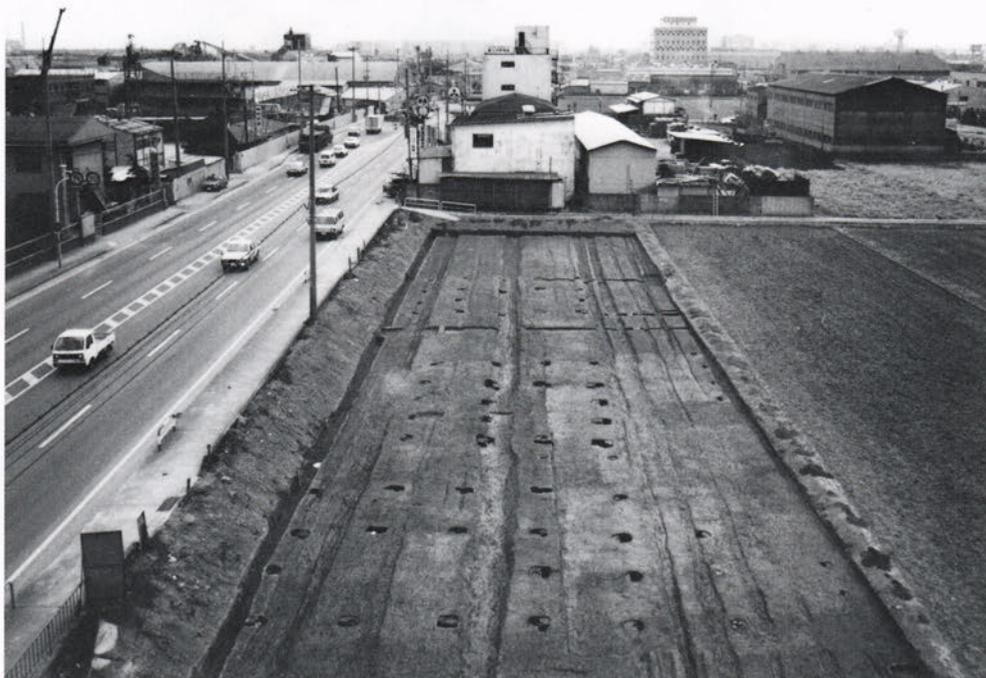
礎石建物は、南北3間・東西2間以上の規模を有し、柱間はいずれも3m等間です。礎石は建物の北西角にあたる柱位置のものが残っており、一辺1.1m・厚さ0.6mの直方体を呈しています。根石は、一辺1.2mの方形の掘形の中に少なくとも三段以上積みあげて構築されており、長径30~50cmの大きな自然石を利用しています。

建物は、長岡宮北辺官衙地区の北端中央に位置し、西辺の柱心は、朝堂院の中軸線より東約66mに位置しています。長岡宮の北辺の存在や範囲については、種々議論の分かれるところですが、本建物が公的施設に伴うものであることは疑いなく、長岡宮北辺の様相を解明する上で欠くことのできない遺構となっています。

長岡京跡左京第141次

(向日市教育委員会)

長岡京期
向日市鶏冠井町馬司



調査地全景(北から)

〔遺跡の概要〕

長岡京跡左京第141次調査は、左京南一条三坊五町の宅地及び、一条第二小路推定地において実施したものです。その結果、宅地内から3棟の掘立柱建物跡や柵列4条、推定地から同小路の北側溝を検出しました。

掘立柱建物跡はいずれも直交する二面に廂を付しており、西辺の柱筋を揃えて建築する等一定の共通性を有しています。

建物は母屋部分がいずれも2間×3間で、柱間は、母屋部分が2.2～2.6m・廂部分が2.4～3.0mとやや広がっています。柱の下に礎板を敷くものも一部にみられます。

検出された建物群は、五町の北西部に位置しており、建築方法に共通性のあるところから、同時に利用されていたと判断されます。ところが、出土遺物は極めて少なく、井戸等の日常生活に不可欠な遺構が伴っていないところから、これら建物の利用者は、別の位置に日常生活の場を配していたものと推測され、その利用面積の広さ等から有位者の邸宅跡が想定できます。



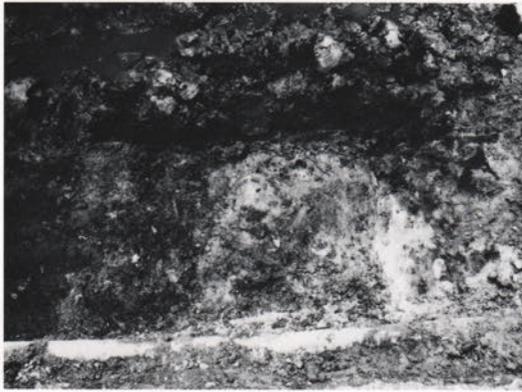
調査地全景(西から)

〔遺跡の概要〕

長岡京跡左京第8566次調査は、水路の改修工事に伴う事前調査として実施したものです。本調査地は、1980年下水道工事の立会調査に際し大量の木簡が出土した第8018次調査区のすぐ南に接した地域であり、木簡の出土が予想されたため、現地が危険な状態ではあったが、発掘調査を実施したものです。その結果、遺存状態良好な木簡440点を発見しました。

木簡の内容を大別すると、①税の検収札、②貢進物の荷札が圧倒的に多く、他に造営関係かと考えられる請求札や習書、断簡があります。特に注目されるのは、検収作業の過程を示す税の荷札を改変して利用した木簡や、伊与国、美作国、讃岐国等から貢進した米に付された木簡です。いずれも、先の調査で出土したものと共通した内容を有しており、左京二条二坊六町に存した太政官^{だいじょうかんみくりや}厨家における諸事務の一端を示すものとして注目されます。

このような木簡が出土した溝S D5202は、幅1.2m・深さ0.4mの素掘りで、六町の西辺を画する溝であったと考えられます。



106. 溝 S D 5202(南から)



107. 木簡出土状況



108. 木簡

展示品目録

番号	遺跡名	出品遺物	点数	時代	写真番号	番号	遺跡名	出品遺物	点数	時代	写真番号						
1	正垣遺跡	縄文土器	4	縄文時代	3	5	志高遺跡	縄文土器片	28	縄文時代・前期	22						
		弥生土器 甕	3	弥生時代				石 鏃	20	縄文時代・前期							
		" 裝飾器台片	1	弥生時代				石 匙	2	縄文時代・前期							
		" 器台	1	弥生時代	刃 器			2	縄文時代・前期								
		" 無頸壺	1	弥生時代	石 斧			1	縄文時代・前期								
		" 台付鉢	1	弥生時代	弥生土器 壺			2	弥生時代中・後期								
		" 短頸壺	1	弥生時代	" 甕			1	弥生時代・中期								
		須恵器 杯身・杯蓋	各1	奈良時代	土 師 器 甕			1	古墳時代・前期								
		" 壺	1	奈良時代	" 鼓形器台			1	古墳時代・前期								
		緑釉陶器	2	平安時代	" 台付鉢			1	古墳時代・前期								
		石製巡方	1	平安時代	" 小型器台			3	古墳時代・前期								
		墨書土器	1	平安時代	" 埴			2	古墳時代・前期								
		黑色土器	1	鎌倉時代	" 皿			2	奈良～平安時代								
		玉 類	3	古墳時代	" 椀			1	奈良～平安時代								
		碁 石	1	鎌倉時代	" 甕			1	奈良～平安時代								
		舟型木製品	1	弥生時代	須恵器 杯・蓋			各2	奈良～平安時代								
		琴型木製品	1	弥生時代	" 杯			1	奈良～平安時代								
スプーン型木製品	1	弥生時代	鏡	1	古墳時代・前期												
2	桃山古墳群	玉 類	79	古墳時代・後期	9	6	仁田城跡	青磁 椀片	1	宋時代	17						
		鉄 刀	1	古墳時代・後期				瓦 器 椀	2	鎌倉時代							
		くつわ	1	古墳時代・後期				" 皿	1	鎌倉時代							
		鉄 鏃	10	古墳時代・後期				須恵器 杯	3	奈良時代							
		刀 子	1	古墳時代・後期				" 蓋	2	奈良時代							
		須恵器 高杯	2	古墳時代・後期				土 師 器 皿	1	奈良時代							
		" 杯身・杯蓋	各2	古墳時代・後期				石 劍	1	弥生時代							
		" 匙	1	古墳時代・後期				石 斧	1	弥生時代							
		3	有明古墳・横穴	須恵器 杯身・杯蓋				各2	古墳時代・後期	8-11・12		7	多保市遺跡	須恵器 杯	3	奈良時代	29
				" 平瓶				1	古墳時代・後期					" 蓋	2	奈良時代	
				" 小鉢				1	平安時代					土 師 器 皿	1	奈良時代	
土師器 甕	1			古墳時代・後期	石 劍	1	弥生時代										
" 杯	1			古墳時代・後期	石 斧	1	弥生時代										
" 鉢	1			平安時代	9	上中遺跡	土 師 器 甕	3	古墳時代・前期		28						
ミニチュア土器	1			古墳時代・後期			" 壺	2	古墳時代・前期								
カマド	1			不明			土師器片	10	古墳時代・前期								
鉄 鏃	1			不明			青磁片	1	古墳時代・前期								
灰釉陶器	1			平安時代	10	湯井遺跡	須恵器 高杯	1	古墳時代・後期		30						
4	下畑遺跡	弥生土器 壺	2	弥生時代・中期			" 高杯蓋	1	古墳時代・後期								
		" 壺・甕底部	3	弥生時代・中期			" 壺	1	古墳時代・後期								
		黑色土器	1	平安時代													
		下 駄	1	鎌倉時代													

番号	遺跡名	出品遺物	点数	時代	写真番号	番号	遺跡名	出品遺物	点数	時代	写真番号					
11	小金岐4号墳	須惠器 杯身・杯蓋	各1	古墳時代・後期	26	15	鶏冠井遺跡	弥生土器 鉢	1	弥生時代・中期	60					
		" 台付長頸壺	1	古墳時代・後期				" 甕	3	弥生時代・中期		59・61				
		土師器 壺	1	古墳時代・後期	23・24	16	郷土塚4号墳	" 壺	1	弥生時代・中期						
		土師皿	1	室町時代							須惠器 杯身・杯蓋	各2	古墳時代・後期			
		磁器	1	江戸時代	25			" 有蓋高杯	1	古墳時代・後期						
12	千代川遺跡	弥生土器 壺	1	弥生時代	38	17	畑山2・3号墳	" 無蓋高杯	1	古墳時代・後期	67					
		" 鉢	2	弥生時代	33			" 埴	1	古墳時代・後期		69				
		" 甕	2	弥生時代	34			" 提瓶	1	古墳時代・後期						
		須惠器 杯身・杯蓋	各2	古墳時代・後期	35・36			" 壺	1	古墳時代・後期						
		" 杯・蓋	7	奈良～平安時代	31			" 環	1	古墳時代・後期						
		製塩土器	5	奈良時代				" 鉄鏝	1	古墳時代・後期						
		土 錘	5	奈良時代									須惠器 蓋	3	古墳時代・後期	62・63・64
		瓦器 椀	1	鎌倉時代				銅 椀	1	古墳時代・後期				66		
		瓦器 片	2	鎌倉時代				銀 環	1	古墳時代・後期						
		火 舎	1	室町時代												
13	篠窯跡群	須惠器 円面硯	1	奈良時代	39	18	隼上り遺跡	風字 硯	1	奈良時代						
		" 大皿	1	奈良時代				青磁 四耳壺	1	南宋時代						
		" 壺	2	奈良時代				土師器 高杯	1	奈良時代						
		" 蓋	3	奈良時代												
		" 杯(重ね)	1	奈良時代	43			19	隼上り1号墳	須惠器 高杯	1	古墳時代・後期	76			
		" (片口)鉢	1	奈良時代						" 長頸壺	1	古墳時代・後期				
		" 高杯	1	奈良時代						" 杯身・杯蓋	各2	古墳時代・後期				
		" 大甕	1	奈良時代						" 短頸壺	1	古墳時代・後期				
		焼 台	1	奈良時代						" 特殊扁壺	1	古墳時代・後期		75		
		へラ記号土器	5	奈良時代	47・48					" 甕	1	古墳時代・後期				
		へラ記号土器	1	平安時代						土師器 甕	2	古墳時代・後期		73		
		須惠器 椀	2	平安時代												
" 蓋	2	平安時代	40・44	20	芝山遺跡	縄文土器片	2			縄文時代・中期	79					
" 杯	1	平安時代	45			須惠器 広口壺	1			古墳時代・後期						
" 皿	1	平安時代				" 台付長頸壺	1			古墳時代・後期						
" 耳杯	1	平安時代				" 壺	2			古墳時代・後期						
" 壺	3	平安時代				" 杯身・杯蓋	各3	古墳時代・後期	77・80・81							
" 鉢	1	平安時代				" 埴	2	古墳時代・後期		83						
						" 円面硯	1	奈良時代								
						勾 玉	1	古墳時代・後期								
						石 鏝	1									
						土師器 丸底壺	1	古墳時代・後期								
						" 高杯	2	古墳時代・後期								
14	長岡京跡	須惠器 壺	3			長岡京期	54・55	21	中ノ島遺跡	軒丸瓦		4	奈良時代	84・85 88・89 86・87・90		
		" 杯・蓋	各2	長岡京期	軒平瓦	3				奈良時代						
		軒丸瓦	3	長岡京期	丸瓦・平瓦	各1				奈良時代						
		軒平瓦	3	長岡京期	須惠器 杯	1				奈良時代						
		緑釉唾壺	1	長岡京期												
		土師器 高杯脚	1	長岡京期												
製塩土器片	20	長岡京期	50・52													

番号	遺跡名	出品遺物	点数	時代	写真番号	番号	遺跡名	出品遺物	点数	時代	写真番号
22	木津遺跡	青磁 椀	1	明時代	92	4	長岡京跡 左京	土師器 椀	1	長岡京期	108
		" 皿	1	明時代				砥石	1	長岡京期	
		染付 皿	1	明時代				(以上第145次)			
		陶磁器 皿	4	室町～江戸時代				須恵器 甗	1	長岡京期	
		" 椀	7	江戸時代				(第141次)			
		青磁 染付椀	1	江戸時代				木簡	20	長岡京期	
		白磁 小杯	1	江戸時代				墨書土器	5	長岡京期	
		陶器 水注	1	江戸時代							
		燈明皿	1	江戸時代				計			
		古銭	10	江戸時代							
		人形	9	江戸時代							
		青磁 大皿	1	江戸時代							
		羽釜	2	室町時代							
		土師皿	3	室町時代							
炮烙	4	江戸時代									
		計	510								
以上, (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター出品。											
以上, (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター出品。											
番号	遺跡名	出品遺物	点数	時代	写真番号						
1	芝ヶ本遺跡	古式土師器									
		壺	4	古墳時代・前期	101						
		器台	4	古墳時代・前期							
		高杯	8	古墳時代・前期							
		小型丸底壺	2	古墳時代・前期							
		鉢	4	古墳時代・前期							
		須恵器 壺	1	古墳時代・前期							
石製石鋼	1	古墳時代・前期									
2	大極殿古墳	盾形埴輪	1	古墳時代・中期	102						
		円筒埴輪	1	古墳時代・中期	103						
		朝顔形円筒埴輪	1	古墳時代・中期							
3	長岡宮跡	重圏文軒丸瓦 (宮跡第158次)	2	長岡京期	104 105						
		蓮華文軒丸瓦 (宮跡第161次)	1	長岡京期							

考 古 展

第5回「小さな展覧会」

—昭和60年度発掘調査の成果から—

昭和61年8月17日(日)～8月30日(土)

発 行 (財)京都府埋蔵文化財調査研究
センター

〒617 向日市寺戸町南垣内40番の3
TEL (075) 933-3877 (代)

印 刷 ヨシダ印刷株式会社

〒921 金沢市御影町19-1
TEL (0762) 41-2141 (代)

主 催 財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
協 賛 向日市文化資料館
後 援 京 都 府 教 育 委 員 会

1986・8・17～8・30